

質疑事項	質疑背景と内容（略）
1. 国際社会に対応した取り組みの推進について	<p>政策名「効率的で質の高い市政運営の実現」施策名「国際社会に対応した取組の推進」についての質問です。県内の2023年末の在留外国人数が22年末比23.9%増の2万5,589人となり過去最高を更新したとの記事が載りました。そして、熊本市では、これも2023年末で9,061人、前年末比1,789人増で熊本市総人口に占める外国人住民の割合は約1.24%と過去5年間で最大とのことでした。さらに、9月1日現在で調べましたところ9,953人（前年比1,683人増）で割合も約1.36%に増えています。</p> <p>このような状況を踏まえ、本年3月に第2期熊本市国際戦略が策定され、めざす姿「世界に選ばれる『上質な生活都市』」の実現のため、戦略的な施策を推進されているところと理解しております。そして、基本施策の中で「多文化共生社会の推進」を掲げ、取組方針「熊本市国際交流会館を拠点とした多文化共生ネットワークの構築」としてその取組が記載されています。さらに、特に重点的に取り組むものとして、リーディングプロジェクトにも「国際交流会館の更なる活用の検討」が設定されています。</p> <p>① そこでお尋ねします。熊本市国際交流会館ですが、まさにこれから、今まで以上に、先ほどの基本施策「多文化共生の推進」の実現のための拠点としての役割が大きくなると考えますが、市長は、これから国際交流会館の果たすべき役割をどのようにお考えかをお聞かせください</p> <p>さて、その国際交流会館ですが、建築されて30年が経過し、改修工事も公共施設等総合管理計画実施計画に基づいて実施されているわけですが、本市の公共施設等総合管理計画や公共建築物長寿命化指針では公共建築物の耐用年数を70年にすることや総延床面積を20%削減することを目標に定めています。拠点としての重要性が高まる中、耐用年数の中間年である35年も迫ってきています。大変気になるところであります。</p> <p>② そこでお尋ねします。拠点として、今以上に、その役割が期待される中、今後、大規模改修をどのように考えておられるのか。いつ計画されているのか、その検討状況を政策局長にお尋ねします。</p> <p>会館の利用ですが、今でも結構先まで予約が入っている状況とお聞きます。仮に、大規模改修が計画されるとなれば、利用者の皆さんへの周知は勿論ですが、その間、改修しながら利用が可能なのか、仮に休館が必要となった場合は、拠点としての機能をどこで代替するかを検討も必要だと考えられますので、5年先ではあります但し早め早めの検討をお願いします。</p> <p>最後に、これは要望です。残念ながら、現在の会館のトイレですが、地下2階から7階までのうち洋式化の改修がなされているのが、地下2階と4階と5階。多目的トイレは整備されており、約8割は洋式化が進んでいるとのことですが、特に、3階には国際会議室、2階には交流ラウンジ、1階はエントランスホールとカフェなど外国人の利用が多いフロアです。また、6階、7階はホールもあり、1階から3階と6、7階の洋式化が不十分な状況です。多文化共生の拠点として備える設備として、また、おもてなしの面からも早急な改善を要望いたします。</p>

質疑事項	質疑背景と内容（略）
<p>2. 高齢者、障がいのある人などが豊かに暮らせる環境づくりについて</p>	<p>政策名「生涯を通して健やかで、いきいきと暮らせる保健福祉の充実」施策名「高齢者、障がいのある人などが豊かに暮らせる環境づくり」についての質問です。</p> <p>事業名「民間活力を活用した健康づくり事業」についてお尋ねします。この事業は、コロナ禍の影響により地域の通いの場の数が減少していること。また、通いの場に参加する高齢者、特に男性や前期高齢者の参加割合が低いために改善が必要であり、誰もが参加しやすい健康づくりの場を確保するための新規事業だったと理解しています。健康福祉局長に3点お尋ね致します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 決算額3千7百万円の内訳を教えてください。 ② 通いの場に参加する高齢者、特に男性や前期高齢者を増やすための事業とのことでしたが、参加者493人の内訳として男性、前期高齢者の割合はどうだったのか、それは想定（目標）人数に対して多かったのか、少なかったのかを教えてください。 ③ 事業内容として「事業終了後の活動継続の仕掛け」があったと思いますが、具体的にどのように活動継続の働き掛けがなされ、実際に多様な運動継続の場への移行は進んだのか。その把握方法も併せてお尋ねします。 <p>誰もが参加しやすい健康づくりの場を確保することは、特にご高齢者にとって大変大事なことだと思います。対象とする年齢層の拡大も9月5日から始まっている募集の中でなされているようです。特にコロナ禍の影響が大きかった通いの場ですので、この事業の効果によって、「場の数」が、早くコロナ禍前以上に、「参加者」も、国の目標値を超えるまでに増えることを期待します。</p>